

本館概要



「民藝」という新しい美の概念の普及と「美の生活化」を目指す民藝運動の本拠として、思想家の柳宗悦（1889-1961）により企画され、実業家の大原孫三郎氏をはじめ多くの賛同者の援助を得て、1936年に開設されました。本館の建物（登録有形文化財）は、西館の石屋根長屋門に意匠を合わせたもので、設計は細部まで柳が手掛けました。所蔵品は、陶磁・染織・木漆工・絵画・金工・石工・編組など、柳の審美眼により選ばれた古今東西の諸工芸品約17,000点。その特色ある蒐集品は国の内外で高い評価を受けています。

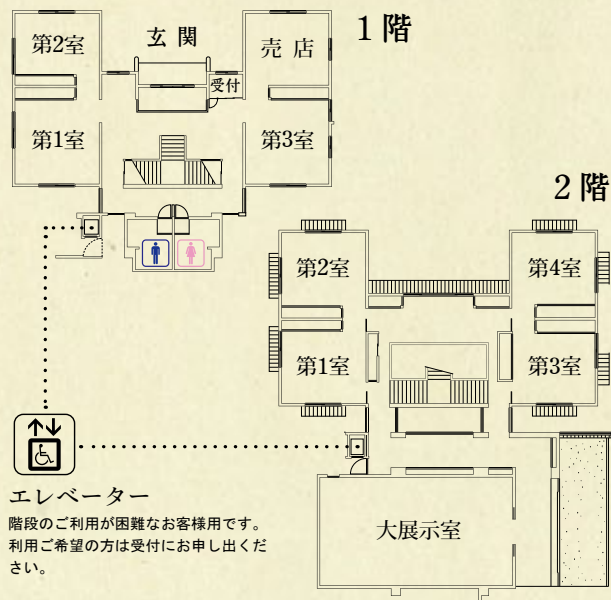
当館では品物の説明書きを意識的に少なくしていますが、それは知識で物を見るのではなく、直観で見ることが何よりも肝要であるという、柳宗悦の見識によるものです。

西館概要（旧柳宗悦邸）



本館の向側に建つ西館は、栃木県から移築した明治初期の長屋門（登録有形文化財）と、柳の設計による母屋からなっています。1935年に完成、柳が72歳で没するまで生活の拠点としました。（展覧会開催中の第2水曜・第2土曜・第3水曜・第3土曜に公開、10:00-16:30開館、入館16:00まで）

—本館案内図—



日本民藝館

10:00 - 17:00（入館は16:30まで）

月曜休館（祝日の場合開館し、翌日休館）・展示替期間は休館

一般 1,000円 大高生 500円 中小生 200円

京王井の頭線駒場東大前駅西口から徒歩7分

〒153-0041 東京都目黒区駒場4-3-33 TEL. 03-3467-4527

<http://www.mingeikan.or.jp/>

日本民藝館

施設案内

年間予定 2013-2014



カバラミブ（木綿切伏衣裳）〔部分〕 北海道アイヌ 20世紀
〔「アイヌ工芸 一祈りの文様」展より〕

2013-2014 年間展示予定

ルウンベ (木綿地に絹・木綿切伏衣装) 北海道アイヌ 19世紀 丈124 cm
〔アイヌ工芸 ― 祈りの文様〕



葬儀用仮面 (ヘナガ マスク) マリ共和国 20世紀 高96・0 cm
〔特別展 柳宗理の見てきたもの〕



〔つきしま かるかや ― 素朴表現の絵巻と説話画〕 築島物語絵巻 (部分) 室町時代 16世紀



火鉢 朝鮮半島 18世紀 高19・0 cm
鉄絵花菱文陶板 美濃 19世紀 幅44・0 cm
〔茶と美 ― 柳宗悦の茶〕



アイヌ工芸 ― 祈りの文様

4月2日(火)～6月2日(日)

北海道とその周辺に暮らしたアイヌの人々は、自然と深い信仰の暮らしのなかで、独特の文様を生み出しました。当館創立者の柳宗悦はアイヌ文化を敬い、1941年には早くも「アイヌ工芸文化展」を開催しています。本展では切伏文様を施した衣裳をはじめ、捧酒箸や小刀の鞘などの木工品、豪華なアイヌ玉首飾りなどを展示します。

つきしま かるかや ― 素朴表現の絵巻と説話画

6月11日(火)～8月18日(日)

日本の絵画史上、素朴美の極みに達したといえる室町時代の絵巻「築島物語」と絵入本「かるかや」(サントリー美術館蔵)。この二つの絵画を軸に、お伽草子絵巻をはじめとする絵巻物、曾我物語屏風などの物語絵、十王図などの絵解きで用いられた仏教説話画など、素朴表現がなされた絵画を中心に、館蔵品を一堂に展覧します。

特別展 柳宗理の見てきたもの

8月27日(火)～11月21日(木)

一昨年暮れに逝去した柳宗理(通称:やなぎ・そうり、1915-2011)。工業デザイナーとして世界的な活躍をする一方で、約30年間にわたり当館の三代目館長を務めました。本展では、柳宗理が生前に自らの眼で蒐集した、古今東西の仮面や布や陶磁器などの品々を展示。柳宗理がどのようなものを見つめ、仕事や生活の糧としてきたのかを紹介します。

平成25年度 日本民藝館展 ― 新作工芸公募展 ―

12月8日(日)～23日(月祝)

手仕事による伝統的な工芸品を中心に、日本各地の新作工芸品の数々を展示・頒布する、恒例の新作工芸公募展です。(出品作:陶磁・織物・染物・木工・漆工・金工・竹工・藁及草工・硝子工・紙・他)

茶と美 ― 柳宗悦の茶

2014年1月10日(金)～3月23日(日)

柳宗悦がこころみ第一回民藝館茶会(1955年)は、既成の「茶」に囚われずに選んだ茶器と、自身考案の道具を用いたものでした。それは「美しき器物なくば『茶』は『茶』とはならぬ」(『茶道を想ふ』)という理念に基づいたものでもありました。今展はその第一回茶会と新撰茶器特別展(58年)、などを再構成し、柳の茶を顕彰するものです。